

〔論 文〕

日本語教材は「イメージ」を教えられるのか

——カタカナ語教育を考える その1——

中山 恵利子

1. はじめに

日本語教育において、カタカナ語¹⁾は和語や漢語のように時間をかけて教育する対象としては取り上げられてこなかった。河原崎(1989)は「(教材の)外来語の選定は多分に恣意的で、文型に合う語彙選びの結果、いくつかを選び、提出しているだけというのが現状である」と指摘している。丸山(2003)は、中上級になっても、「ごく基本的だと思われるカタカナ語彙が読めない・書けない・わからないという学習者」が見受けられ、それは学習者の能力の問題ではなく、カタカナ語の指導が漢字語彙や文法に押され、後手に回っている指導上の問題であるとしている。中山他(2008)によれば、教材におけるカタカナ語の出現率は実社会のそれには遠く及ばない数字であり、教師の多くは、カタカナ文字の定着をひらがなほど図らず、またカタカナ語は「使用教材に出てきたときに教える」だけなので、学習者は日常生活で困難を抱えており、もっときちんと教えてほしいと要望している、という調査結果が出ている。河原崎(1989)から中山他(2008)まで20年が経過しているが、いずれも教材や指導に問題ありと指摘しており、あまり改善は見られないようである。

筆者は国立国語研究所の「外来語」委員会の委員を務めた際に、新聞のデータベースを用いて基幹外来語の研究を行う機会を得た²⁾。基幹外来語とは真田(1977)の「基幹語彙」³⁾に基づく命名であり、この研究においては新聞に多用される外来語を指している。また、ほぼ同時期に科学研究費補助金を得て、カタカナ教育に関する日本語教育現場の実態調査や教材等の調査を行った⁴⁾。その結果の一部が上記の中山他(2008)である。偶然にも同時期に、日本社会の縮図のような新聞で多用されている基幹外来語と、日本語教育現場で教えているカタカナ語を調べることとなり、日本語教育におけるカタカナ語は現実社会のそれと差が大きすぎることを痛感した。カタカナ語を苦手とする学習者が多いことは日本語教師の誰もが実感として感じていることだが、問題の所在は、先行研究でも指摘しているとおり、学習者の能力ではなく、教材と指導である。カタカナ語に時間をかけられないという物理的な問題も立ちはだかる。そこで、今後のカタカナ語教育に何が有効なのかを考えるために、教材と指導について、中山他(2008)で行った量的な調査ではなく、質的な調査をしないことにした。ここで質的な調査というのは、カタカナ語がどのように教材で教えられ、どのように教師に指導されているかについて、1語を取り出して詳細に追う調査のことである。

まず、本稿では、日常生活で多用されるカタカナ語を1語、調査対象語として取り出し、その語の語義や用法を、実際の用例に基づいて整理した上で、その語義や用法のうちの何がどのように教材で取り上げられているか調べ、教材が当該語を教えることができているのかについて検証する。また、指導については、当該語を教える際に、教師が参考にするであろう辞書等の記述を調査するとともに、教師が実際にどのように教えているかについてインタビューした。指導の調査結果については、稿を改める予定である。

2. 「イメージ」を対象語とする理由

本稿で対象とするカタカナ語として「イメージ」を取り上げる。「イメージ」を取り上げる理由は以下の3点である。

第1に、「イメージ」は雑誌や新聞における使用頻度が高いからである。新聞や雑誌において使用頻度の高い外来語は基本語化⁵⁾している可能性も高く、学習者の目にも触れる機会が多く、知らないと困る度合いが高いと考えられる。

頻度を見るために、雑誌については国立国語研究所(2005)を利用した。これは、月刊雑誌70誌を対象に出現頻度7以上の約97万3千語を取り出した語彙表である。これらの対象語のうち、和語や漢語も含めた自立語は異なり語数で59,042語であり、そのうち「イメージ」は頻度順で第785位に挙げられる。また、自立語のうち一般の外来語数は異なり語数で15,779語であり、そのうち、カタカナ表記された外来語としては第53位である。これらの数値から「イメージ」は雑誌における使用頻度がかかなり高い語であることが分かる。また、新聞の頻度については中山他(2007)に依拠した。これは、新聞10年分のデータベースから頻度100以上の外来語8,226語を抜き出した語彙リストが母体となっている。そのうち、「イメージ」は第39位、カタカナ表記された外来語だけを対象にすると第35位を占めており、新聞に多用される外来語の中でもトップ集団に入る語であることが分かる。さらに、中山他(2007)では使用範囲(新聞紙面)についても調査がある。その結果を見ると、「イメージ」は全ての面種(16面)で頻度が100位以内に入り、全体で70位となっており、多様なジャンルで幅広く使用される語であることが分かる。

第2に、「イメージ」は日本語教育のための基本語彙集のような教育用語彙リストにも掲載されている重要語だからである。中山(2007)では日本語教育の語彙表6冊における外来語を調査している。そのうち、「イメージ」は『日本語教育のための基本語彙調査』『日本語能力試験出題基準』『品詞別・A～Dレベル別1万語彙分類集』の3冊に掲載されており、日本語教育の分野でも教育対象とすべき語だと認識されていることが分かる。なお、『日本語能力試験出題基準』においては2級の語彙⁶⁾とされている。日本語教育においてメジャーな試験においても対象語とされてきたということは、この語を取り上げている教材は多いだろうと推測される。

第3に、「イメージ」には名詞用法と動詞用法があり、語義も複数存在し、また、「イメージがいい・悪い」「○○のイメージがある・ない」「イメージを変える」等のコロケーション⁷⁾や「イメージアップ」「イメージチェンジ」「企業イメージ」等の複合語も豊富だからである。語義や用法が豊富な語は、それらを教材がどのように扱っているのかという実態を調査する際に幅が出るだけでなく、それらをどのように扱うべきかという今後の方向性を考える際にも幅が出る。

以上の3つの理由により、本稿では「イメージ」を対象語とすることにした⁸⁾。

次章では、まず「イメージ」の語義と用法について、実際の用例に基づいて整理しておこう。

3. 実際の用例にみる「イメージ」の語義と用法

実際の用例から「イメージ」の語義を取り出し整理するにあたり、実際の用例は中山他(2007)で用いた500例⁹⁾に拠った。その500例の分析から、「イメージ」の主な語義を分類¹⁰⁾し、その語義ごとに例文を作り、よく使われるコロケーションや複合語等の用法をまとめた。以下、用例はすべて作例である。

Mar. 2011

日本語教材は「イメージ」を教えられるのか

A 名詞 知っている物事から受ける全体的な印象, 感じ

Aは名詞用法のみ

※何らかの価値判断を含むことが多い。

コロケーションを伴うことが多い

1. 日本料理には健康にいいというイメージがある。
2. 日本に対してどのようなイメージを持っていますか。
3. 髪を切ってイメージを変えたら, 誰も私だと気がつかなかった。
4. 企業イメージを高めるための戦略を話し合う。

【コロケーション】 ~がある／ない ~がいい／悪い ~が強い ~を変える
~を壊す ~が定着する 等

【複合語】 イメージアップ イメージダウン イメージチェンジ プラスイメージ
企業イメージ 等

B 1 名詞 見聞きしたものとから, 思い描くもの・思い浮かべるもの・連想するもの

※映像を思い描くことが多い。

Bの名詞用法は少ない

1. 熱帯気候のタイに雪が降ったと言われても, イメージがわからない。
2. 冒頭の1ページを読んだだけで, 主人公のイメージが鮮明に浮かんだ。
3. 身体の中の悪いものを外に出すのだというイメージで, 水をたくさん飲むとよい。
4. イメージトレーニングを積んだ選手は精神的に強くなったように感じられる。

【複合語】 イメージトレーニング

B 2 動詞 見聞きしたものとから, 思い描くこと・思い浮かべること・連想すること

※映像を思い描くことが多い。

文型が決まっていることが多い

1. 赤い色から何をイメージしますか。
2. 紺碧の海と聞いてイメージするのは, 離島の海だ。
3. 本を読んでイメージした人物像と映画化された人物とはかなり違っていた。
4. 自分の理想像をイメージしてください。

【文型】 NからNを~する Nと聞いてNを~する Vて~する

【類義語】 思い描く 想像する 思い浮かべる 連想する

C 1 名詞 自分の頭の中で新しく創り出したもの

Cの用例は少ない

1. お風呂に入っているときに, 新しい作品のイメージがわいてきた。
2. 制作前に完成していたはずのイメージは, 作業が進むにつれ, どんどん変わっていった。
3. 心に浮かぶイメージをそのまま言葉にできる人は少ない。
4. 頭の中に思い描いたイメージどおりに作ってみた。

C 2 動詞 自分の頭の中で新しく創り出すこと

1. これまで誰も考えたことがないようなロボットをイメージしてみた。
2. 絵の具を何種類か使って, イメージした色を作り出すのは難しい。
3. 当デザイン学校では, イメージする力を育てることを目標としている。
4. この作品では, 私がイメージした春を描いてみました。

【類義語】 思い描く 想像する

D 名詞 画像, 映像

Dは名詞用法のみ

1. スキャナーを使えば, イメージを簡単にコンピューターに取り込める。
2. フリーソフトからダウンロードしてきたイメージを使って, 教材を作成した。

3. 昔の俳優の銅像を作ることになり、映画やドラマのイメージやポスターを集めた。
4. CD-ROMに5000以上のイメージデータが収録されたソフトが発売された。
【複合語】 イメージスキャナー イメージデータ

E 動詞 模倣すること

Eは動詞用法のみ

1. 新作のお菓子は桜の花びらをイメージして作られた。
2. この町では北欧の福祉システムをイメージして、労働者全員に育児休業を認めている。
3. オホーツク海をイメージして作られた青いカレーを食べてみたい。
4. 30年前のファッションをイメージしてデザインされたドレスやスーツが売れている。

F 1 名詞 N 1 から受ける印象をもとにして、あるいはN 1 から自由に思い描いて、作ったN 2

語義の拡大(作るまで含む)

文型が決まっている

1. 彼女は、秋のイメージの香りを身にまとして壇上に現れた。
2. この作曲家は天使のイメージの曲で有名になった。
3. この地方では、くもの巣のイメージの刺繍が古くから受け継がれてきた。
4. 彼女は虹のイメージのスカーフを上手に使いこなしていた。
【文型】 N 1 のイメージの N 2

F 2 動詞 N 1 から受けた印象に基づいて、またはN 1 から自由に思い描いたものをN 2 に／として表現すること

語義の拡大(作るまで含む)

文型が決まっている

1. このピアノ曲は動物たちの愛らしい動きをイメージしている。
2. 今回出展する作品は夜明けの光をイメージしたものになるだろう。
3. 新しくできたリゾート施設は海をイメージした外壁が美しい。
4. 赤と緑のユニフォームは国旗をイメージしたものである。
【文型】 N 2 は N 1 をイメージする N 1 を／からイメージした N 2

G 名詞 構想・全体像

Gは名詞用法のみ

1. 新政権の教育政策のイメージがようやく見えてきた。
2. 会議で社長が長期的な視野に立った新事業のイメージを発表した。
3. 首脳陣の間では、会社再建のイメージがかなり異なっているようだ。
4. 新商品の販売戦略のイメージが固まりつつある。

分析する前に、動詞用法B, C, E, Fについて説明を加えておく。Bが最も基本的な動詞用法である。Cは「思い描く」ものが「創造的」である点で、Bとは異なるが、大きくはBに含めてしまってもかまわない。Eは単に「思い描く」のではなく、形(式)を「模倣する」ことが焦点となっている。B, C, Eの意味は連続的である。また、Fには語義の拡大が認められた。これについては、次の2例を比較しながら説明しよう。

i: この曲は桜をイメージして作った。(B)

ii: 桜をイメージした曲が流れていた。(F)

iの用例に見るとおり、「イメージする」の意味は、「見聞きしたものごとから、思い描くこと・思い浮かべること・連想すること」である。「桜を心の中で思い描いてこの曲を作った」と理解できる。しかし、iiの「桜をイメージした曲」というのは、「桜を心の中で思い描いて作った曲」であり、iでは「イメージする」の外にあった「作った」という語が、iiでは「イメージした」の中に含まれてしまう。

Mar. 2011

日本語教材は「イメージ」を教えられるのか

「秋をイメージしたコロンが発売された」「この家には海をイメージした部屋がある」「この服は女優をイメージしている」等、これらの「イメージした(している)」は全て「心に思い描いて作った(ている)」という意味となる。本来「イメージする」には含まれない「作る」という意味まで含んでいるため、語義の拡大と呼ぶことにした。

新聞という限られた媒体においてではあるが、実際の用例にあたったことで、どの語義が現代社会で多く使用されているのかが分かる。Aが7割弱を占め、Bが15%弱で2位と、圧倒的にAの語義が多い。また、動詞用法についてはB, C, E, Fを合わせて1割弱¹¹⁾であった。このことから、「イメージ」を日本語学習者に教える場合は、まずはAを提示する必要があると言えよう。また、数においてはAに押されているが、B(C)も「イメージ」の基本的な語義であり、名詞だけでなく動詞用法も教えるべきである、と筆者は考える¹²⁾。「目を閉じて、広い草原をイメージしてください」「日本と聞いて何をイメージしますか」といった文が分からない学習者は「イメージ」を習得しているとはいえないと思うからである。

この2つの語義を押さえれば、新聞に出現する「イメージ」のうち、およそ8割は理解できることとなる。その上で、最近増加していると考えられるDを、また、Bの動詞用法の発展形としてE, Fを、余裕があればGを教えるというように、段階を持たせて、初中級レベルくらいから上級レベルにかけて徐々に語義を増やしていくのが理想的であろう。

4. 日本語教材における「イメージ」の扱い方

4-1. 日本語教材における「イメージ」の掲載率

次に、「イメージ」が日本語の教材でどのように扱われているのかについて見ていこう。中山(2006)では、「カタカナ語をどのように教えていますか(複数回答可)」と日本語教師211人に対して問い、「カタカナ語彙専用教材を使って教えている」が67人と31.8%、「カタカナ語彙専用教材は使っていないが、普段使っている教材に出てきたら、和語・漢語と同様に教えている」が152人と72.0%という結果を得ている。このことから、本稿で調査対象とする教材は、カタカナ語彙専用教材ではなく、総合教科書とする。「普段使っている教材」が総合教科書だけを指しているわけではないことは自明のことであるが、上級以上のクラスを除けば、総合教科書を利用しない教師は少ないであろうこと、また、総合教科書以外に何を使っているかという個々の状況に分け入り、教材を細分化して考察することが本稿の目的ではないということがその理由である。

中山(2007)では、1990年以降に発行された日本語の総合教科書82冊の語彙索引にどのようなカタカナ語が掲載されているかを調査している。その後新たに出版されたもの等30冊¹³⁾を加えた112冊について、「イメージ」が掲載されているかを調べた。その結果を表1に示す。

表1 日本語総合教科書における「イメージ」の掲載率

級別	総数(冊)	「イメージ」掲載数(冊)	掲載率
初級	57	3	5.3%
初～中級 ¹⁴⁾	15	5	33.3%
中級	24	7	29.2%
中～上級 ¹⁵⁾	11	2	18.2%
上級	5	3	60.0%
計	112	20	17.9%

「イメージ」を掲載している総合教科書は、112冊中20冊であり、掲載率は17.9%である。新聞雑誌等で多用されている語、かつ日本語教育の分野で教育対象と認識されている語にしては、総合教科書への掲載率が低いといわざるを得ない。概観すると、初級より中級、中級より上級のほうが多くなっていることが分かる。これは、「イメージ」が旧日本語能力試験において、2級の語彙¹⁶⁾とされていることに

起因しているのであろう。しかし、2級レベルの語だとするなら、2級に向けた学習をする時期に相当するであろう中級や中～上級の総合教科書の掲載率をもっと高くてもいいのではないだろうか。

4-2. 日本語教材における「イメージ」の用例

ここでは、「イメージ」を掲載している総合教科書20冊がどのような用例を使って「イメージ」を教えているのかを表2にまとめる¹⁷⁾。前章でまとめた「イメージ」の語義分類を記号で付した。波線はイメージのコロケーションを、二重線は動詞用法を示す。

表2 総合教科書における「イメージ」の用例

	教科書名 【レベル】	語義 分類	用例
1	実力日本語 下 【初級】	A	海外の人から見て、日本人はどういうイメージでとらえられているでしょうか？
2	学ぼう！にほんご 初級1 【初級】	A	A：きょうはどうしましょうか。 B： <u>イメージを変えた</u> いんですが…。
3	JAPANESE FOR BUSY PEOPLE III 【初級】	A	愛子：うわあ、きれいなお花、ありがとうございます。とてもいいかおり。 マルタン：愛子さんのイメージで、花屋さんに作ってもらったのよ。
4	J. Bridge for Beginners vol. 2 【初～中】	A	私たちは日本人の韓国に対する <u>イメージがどう変わったか</u> について調査したいと思います。
		A	最近、韓国に対する <u>イメージが変わった</u> かどうか
5	文化中級日本語 I 【初～中】	A	今新宿は都庁や高層ビルが建っていて、とても近代的な <u>イメージがある</u> んですが、昔はどうだったんでしょうか。
		A	今も新宿には、お酒を飲んだり、映画を見たりする所という <u>イメージがあります</u> けど、…。
		A	A：中村屋のカレーはインド式の本格的なカレーで、高級レストランの <u>イメージがあつた</u> んです。 B：高級レストランのイメージですか。
6	学ぼう！日本語 初中級 【初～中】	A	【問題文】自分の国の歌やスポーツ、アニメ、都市などの中から一つテーマを決めて、みんなに宣伝するための原稿を書きましょう。代表例を挙げたり、みんなの <u>持っているイメージと違う</u> ところなど考えて書いてみましょう。
7	J. Bridge 新装版 【初～中】	A	【はじめに】日本に来る前、あなたは日本人や日本に対してどのような <u>イメージを持っていた</u> か。
		A	また、そのイメージは今も同じですか。
		A	もし、違うなら、どうして <u>イメージが変わり</u> ましたか。
8	ニューアプローチ 中級日本語 【基礎編】改訂版 【初～中】	B	色とその色から <u>イメージする</u> ものは関係があるかもしれません。
		B	青と赤と黄色の中でどれが一番「危険」を <u>イメージ</u> しますか。
		A	赤のイメージはもちろん「危険」だけではありません。
		A	青には別の <u>イメージがあります</u> 。
		A	【本文設問】色によって <u>イメージがどう変わる</u> か考えてみましょう。
9	現代日本語 中級総合講座 【中級】	A	時代小説の質屋の <u>イメージがこわれる</u> から。
10	進学する人のための 日本語中級 【中級】	A	「生産」ということばからは、農業生産や工業生産などの「もの」をつくるという <u>イメージを強く受ける</u> が、サービスも立派な生産物である。
11	日本語中級 J501 一～中級から上級へ 【中級】	G	最近では、コンピューターのおかげで、水の分子についてかなりはっきりした <u>イメージがつかめる</u> ようになってきました。

Mar. 2011

日本語教材は「イメージ」を教えられるのか

12	みんなの日本語 中級Ⅰ 【中級】	E	この庭にある大きな石と池は、富士山と海をイメージして造られました。
		B	静かに目を閉じて、将来なりたいと思う自分をイメージし、自分がそれになったつもりで、そこから今の自分を見るというトレーニングです。
		B	頭の中に具体的に理想の自分がイメージできたら、立っている位置を変えて、今の、つまりイメージの中では過去の自分と向き合うのです。
		B	将来の理想の自分をイメージしてください。
13	日本語中級Ⅱ 【中級】	B	こちらのほうは文字どおり電気で皮膚を焼き切っていくといったイメージですが、これとレーザー・メスとはどう違うんですか。
14	上級へのとびら 【中級】	A	また、清音か濁音かでもイメージが違ってきますし、長音があるか、促音があるかでも、聞いた感じはずいぶん変わります。
		B	それから、いい言葉が見つからない時に、イメージを音に置きかえて表現することで、こちらの言いたいことが相手に伝わることもあります。
15	日本語5つのとびら —中級編— 【中級】	A	一番大切なのは名前を覚えてもらうことですが、自分の特徴を上手にアピールして、「明るい人」「積極的な人」「前向きな人」などのイメージを与えることも大切です。
		B	Aを聞いて思い出したことやイメージしたことを話すときに使う。
		B	日本では花といえば、「さくら」をイメージする人が多いようです。
		B	お茶といえば、日本では緑茶をイメージする人が多いです。
16	新聞で学ぶ日本語 —読んで話す現代の日本— 【中～上】	A	「偉くなること」について他国では「能力を発揮できる」「尊敬される」という肯定的なイメージをもつ者が多いのに対し、日本では「責任が重くなる」が79%で負のイメージが強い。
17	教養の日本語 basic 【中～上】	B	病が原因で死ぬというよりも、命の火が燃え尽きて死ぬイメージだそうだ。
18	上級日本語 【上級】	A	イメージで言えば、恋は熱いもの。
		A	外国文化への適応・不適応を決定する条件が何かにについては、まだ十分な説明がなされていないが、その国に対して以前から抱いているイメージ、ステレオタイプ、偏見が、初期における適応への努力を奨励したり、阻害したりすることは確かである。
19	上級日本語教科書 文化へのまなざし 【上級】	A	テレビ・アニメの放映においては、その鍵はマンガ・アニメの人気キャラクターのもつイメージにある。
		A	広告代理店は、商品イメージとして、人気マンガのキャラクターのなかからふさわしいイメージをもつものを選択し、スポンサーのところに持ち込む。
		A	キャラクターのイメージによって、視聴者の年齢や性別、嗜好が容易に特定され、スポンサーはその視聴者層をターゲットとする商品広告をおこなうことができる。
		A	イメージの組み合わせに成功すると、スポンサーの商品の売り上げがあがる。
		A	イメージ同盟は、マンガ・アニメの人気キャラクターのイメージを選定し、その価値を測り、さまざまな商品にそのイメージの価値を添加して、消費者に販売するメカニズムである。
		A	イメージ同盟の各メンバーは、同一のキャラクターのイメージを共有するという点以外では、通常なら相互に共同しあうことはなく、専ら自らの利益を追求しているにすぎない。
		A	キャラクターのイメージと人気を、交換価値に変換する仕組みがコピーライト(著作権)である。
		A	一度このイメージ同盟のシステムが成立すると、マンガ・アニメのキャラクターは、ストーリーの担い手から、与えられたイメージを媒介するシンボルという存在に変身する。
		A	ところが、こうしたイメージの媒介人は、必ずしもマンガの主人公である必要はない。
		A	人気のあるキャラクターであれば、イメージ同盟を構成する業種のたとえどこからそのキャラクターが現れようとも、イメージ同盟はその人気度とイメージを商品価値に転化し、共有しあうことで、最大限の利益を上げるシステムである。
20	教養の日本語 【上級】	A	しかし、これらの「音に対するイメージ」が人間に共通しているわけではない。
		A	「パッと赤くなる」と「ポッと赤くなる」の違いは、教師が説明すれば、知識としては理解できるが、「音」をイメージとして感覚的につかんでいるわけではなさそうだ。

4-3. 日本語教材における「イメージ」の検証

実際に教える際には、表2に掲載した総合教科書を使用するとは限らない。どの教科書も使わないことも考えられるし、使うとしても、シリーズ物でない限り、この中の1冊だけを使う、ということのほうが多いはずだ。そこで、この20冊をシリーズ物とそうでないものに分け、語義や動詞用法、コロケーション、複合語について表3にまとめなおしてみた。もともとはシリーズ物であるが、そのうちの1冊しかこの20冊に入っていないというものは、シリーズ物ではないほうに分類している。

表3-1 シリーズ物 3部

教科書	語義	動詞	コロケーション	複合語
学ぼう！にほんご初級1【初級】	A	×	～を変える	×
学ぼう！日本語初中級【初～中】	A	×	持っている～ (～を持つ)	×
J. Bridge for Beginners vol. 2【初～中】	A	×	～が変わる	×
J. Bridge 新装版【初～中】	A	×	～が変わる ～を持つ	×
教養の日本語 basic【中～上】	B	×	—	×
教養の日本語【上級】	A	×	—	×

表3-2 シリーズ物以外 14冊

教科書	語義	動詞	コロケーション	複合語
実力日本語 下 【初級】	A	×	—	×
JAPANESE FOR BUSY PEOPLE III 【初級】	A	×	—	×
文化中級日本語 I 【初～中】	A	×	～がある	×
ニューアプローチ中級日本語 [基礎編] 改訂版 【初～中】	A・B	○	～がある ～が変わる	×
現代日本語 中級総合講座 【中級】	A	×	～がこわれる	×
進学する人のための日本語中級【中級】	A	×	～を受ける	×
日本語中級 J501 —中級から上級へ— 【中級】	G	×	～がつかめる	×
みんなの日本語中級 I 【中級】	B・E	○	—	×
日本語中級 II 【中級】	B	×	—	×
上級へのとびら 【中級】	A・B	×	～が違う	×
日本語5つのとびら —中級編— 【中級】	A・B	○	～を与える	×
新聞で学ぶ日本語 —読んで話す現代の日本—【中～上】	A	×	～を持つ	×
上級日本語 【上級】	A	×	抱いている～ (～を抱く)	×
上級日本語教科書 文化へのまなざし 【上級】	A	×	もつ～ ～をもつ	～同盟

Mar. 2011

日本語教材は「イメージ」を教えられるのか

シリーズ物はシリーズで1部と数え、以下、シリーズ物3部、シリーズ物以外14冊として論を進める。

まず、語義について見てみよう。1つの語義しか扱っていない総合教科書は2部と10冊、2つの語義を扱うものは1部と4冊（『教養の日本語 basic・教養の日本語シリーズ』（A・B）、『ニューアプローチ中級日本語 [基礎編] 改訂版』（A・B）、『みんなの日本語中級 I』（B・E）、『上級へのとびら』（A・B）、『日本語5つのとびら』（A・B））、3つ以上の語義を扱うものはない。2つの語義を扱うもののうち、「イメージ」の主要な語義としたAとBの両方を教えているのは、1部と3冊である。112冊のうち20冊（シリーズ3部+14冊）しか「イメージ」を掲載している総合教科書はなく、その中の1冊を使用してかろうじて「イメージ」に触れたとしても、ほとんどの場合、語義は1つ教えただけでおしまい、ということになる。

1つの語義しか教えないならば、まず語義Aを取り上げるというのが、使用頻度から考えて妥当であろう。しかし、中には語義Aを教えていない総合教科書もある。『日本語中級 J501—中級から上級へ—』（G）、『みんなの日本語中級 I』（B・E）、『日本語中級 II』（B）の3冊である。『みんなの日本語中級 I』は語義を2つ取り上げているにも関わらず、語義Aは教えていない。これらの総合教科書を使用する際には、語義を補って教えるべきであろう。

また、使用頻度から考えても用法から考えても2番目に教えたい語義Bを扱う総合教科書は1部と5冊（『教養の日本語 basic・教養の日本語シリーズ』（A・B）、『ニューアプローチ中級日本語 [基礎編] 改訂版』（A・B）、『日本語中級 II』（B）、『みんなの日本語中級 I』（B・E）、『上級へのとびら』（A・B）、『日本語5つのとびら』（A・B））のみである。語義Bには動詞用法があるが、その動詞用法にいたっては、そのうちの3冊（『ニューアプローチ中級日本語 [基礎編] 改訂版』、『みんなの日本語中級 I』、『日本語5つのとびら』）しか取り上げていない。反対に、『みんなの日本語中級 I』では、語義BもEも動詞用法の用例ばかりで、名詞用法を教えていない。これも片手落ちと言わざるを得ない。

次に、語義Aには「イメージがいい／悪い」「イメージがある」「イメージが強い」「イメージを変える」「イメージを持つ」等多様なコロケーションが存在する。コロケーションを使用しているのは、2部と10冊と、少なくない。しかし、コロケーションを2種類以上扱っている総合教科書となると、2部と1冊（『学ぼう！にほんご初級1・学ぼう！日本語初中級シリーズ』『J. Bridge for Beginners vol. 2・J. Bridge 新装版シリーズ』『ニューアプローチ中級日本語 [基礎編] 改訂版』）に激減する。

最後に、「イメージチェンジ（イメチェン）」や「イメージアップ」、 「イメージトレーニング（イメトレ）」等の、多用される複合語を取り上げている総合教科書はない。『上級日本語教科書 文化へのまなざし』が「イメージ同盟」という複合語を取り上げているが、これは多用される複合語とは言いがたい。

以上を総合すると、かろうじて「イメージ」を教えることができていると思われる総合教科書は、語義AとBを教え、動詞用法や2種類以上のコロケーションを教えている『ニューアプローチ中級日本語 [基礎編] 改訂版』の1冊のみとなる。コロケーションは1種類だけ¹⁸⁾だが、基本的な語義や動詞用法を満たしているものに『日本語5つのとびら—中級編—』がある。112冊中2冊だけがクリアしている、という事実は、日本語の総合教科書では「イメージ」を教えられていない、と言い換えても過言ではないであろう。

5. 結びに代えて

以上、日本語の総合教科書で「イメージ」が教えられるかどうかについて検証してきた。その結果、次のことが分かった。

(I) 「イメージ」を掲載する総合教科書は2割弱であり、特に、旧日本語能力試験2級の語彙として適

切な導入時期である中級から上級レベルにかけての総合教科書への掲載率が低い。

- (II) 「イメージ」を取り上げている総合教科書のうち、全ての語義を取り上げている教科書はない。
- (III) 複数の語義を掲載している総合教科書が1部と4冊と少ない。基本的な語義であるAとBの両方を教えているのは1部と3冊のみである。
- (IV) 「イメージ」を取り上げていても、最も多用される語義Aを教えない総合教科書も3冊ある。「イメージ」を取り上げていないものも含めれば、総合教科書112冊中95冊が語義Aを教えていない。
- (V) 語義Bを教えるものは1部と5冊あるが、そのうち、動詞用法を教えるものは3冊しかない。ただし、そのうち1冊は名詞用法を教えず、動詞用法しか教えていない。
- (VI) コロケーションを教えているものは少なくないが、複合語を教えているものはない。
- (VII) 基本的な語義AとB、動詞用法、コロケーションを教えている総合教科書は2冊しかない。

この結果を見る限り、総合教科書においては「イメージ」は教えられていない、という結論に達する。予測できていたこととはいえ、悲惨な結果である。基本的なカタカナ語が増えている現在において、現実の言語活動が反映されるべき日本語教材にカタカナ語の掲載が少なく、また取り上げる語義や用法が偏っているという、この結果そのものは問題視されるべきであり、できる限り基本的なカタカナ語をカバーする教材を作りましょうという提案につながることは必至である。しかし、総合教科書は初級段階では文型を中心に、また、中級以降では読解文を中心にして作成されているものが多く、その中でカタカナ語においても満足のいくものを作成することは至難の技であろう。「はじめに」で述べたように、先行研究によれば、カタカナ語教育は教材と指導に問題があるが、教材を劇的に変えることが難しいならば、教師の指導力を上げるほうが効果的だと思われる。

日本語教師がカタカナ語に限らず語彙教育をするときに大切なことは、使用している教材に語が出てきたときに、その語の体系を知識としてもち、その語のどの部分を教えているのかを把握でき、もし不足があるようならば補足できることである。例えば、『日本語中級J501』を使っている教師が「最近では、コンピューターのおかげで、水の分子についてかなりはっきりしたイメージがつかめるようになってきました。」という文で「イメージ」を教えるときに、この語義(G)だけでは足りないから語義A、Bとそれらの用法を補おうと思えることである。教師がそう思えたなら、時間の許す限り「イメージ」について説明を加えることが可能になる。オーソドックスな例文をいくつか挙げて語義を示すだけでも学習者には勉強になる。しかし、教師がそう思えるためには、繰り返しになるが、教師がその語の体系を知識として持っていないと無理である。

本稿では教材が「イメージ」を教えられないことがわかったが、次なる課題は、教師が「イメージ」を教えられるか、という点である。稿を改め、検討していきたい。

〔謝辞〕

本稿は2010年度世界日本語教育大会(台湾・国立政治大学)における発表に基づいている。共同発表者の田中恵子氏、加藤理恵氏に謝意を表したい。

注

- 1) 本稿では、「カタカナ語」を用いる。「カタカナ語」とはカタカナ表記される語のことであり、和語や漢語のカタカナ表記も含まれるので、「外来語」より意味領域が広い。本稿は、「イメージ」を対象語とするため、「外来語」を用いてもなんら問題はないが、筆者のこれまでの研究との整合性から「カタカナ語」を用いることとする。
- 2) 国立国語研究所の「外来語」委員会は2002年8月から2006年3月にかけての3年半の間に4回の言い換え提案を行い、5冊の報告書ならびに『分かりやすく伝える 外来語言い換え手引き』(ぎょうせい)という一般向け書籍を出版している。その言い換え提案を支える調査研究のひとつに「公共性の高い媒体における外来語の使用実態の調査」があり、白書、広報紙、新聞の電子テキストを対象に、コンピューターを活用した頻度調査や意味・用法の分析などを行った。筆者は新聞を対象にした調査分析を行い、中山他(2007)「新聞に見る基幹外来語」をまとめた。

Mar. 2011

日本語教材は「イメージ」を教えられるのか

- 3) 真田 (1977) の「基幹語彙」とは、ある特定の語集団を対象として語彙調査を行い、その調査から直接に得られるその語集団の骨格としての部分集団のことを指す。中山他 (2007) の基幹外来語は、新聞 (ある特定の語集団) を対象として語彙調査を行い、その調査から得られる、新聞で多用される外来語のことを指す。
- 4) 2005年度及び2006年度に科学研究費補助金による研究を行った。初年度は日本語教育現場において教育機関、教師及び学習者にアンケート調査を行い、中山 (2006) にまとめた。また、2006年度は教材や指導書等の文献調査及び論文執筆を行い、中山 (2007) にまとめた。なお、カタカナ教育とは、カタカナ文字の教育とカタカナ語の教育を合わせたものを言う。
- 5) 基本語化とは、金 (2005) によれば、「雑誌や新聞などで数多く用いられるようになり、基本語彙の仲間入り」をすることである。
- 6) 日本語能力試験2級である。2010年度より本格的に始まった新試験は基準を示していないため、「イメージ」がN2の語彙に相当するかどうかについては不明である。
- 7) コロケーションについては様々な定義が存在する。本稿では、「助詞を介して2つの言葉が結びついたもので、この結びつきが強いもの」と定義する。例えば、「ベストを尽くす」「スランプに陥る」「レットルを貼る」等。ただし、結びつきの強さについては客観的な数値があるわけではないので、揺れが存在する。
- 8) 「イメージ」のほかにも、第1の条件にかなない、第3の動詞用法のある語を100語あまり取り出して、語義や用法を整理している。
- 9) 『CD- 毎日新聞 (東京版)』の1994年～2003年の10年間の全記事のうち、タイトルを除いた本文を対象にサンプリングを行い、500用例を抽出した。詳細は中山他 (2007) を参照。
- 10) ここでは、日本語教育で取り上げるべきと判断した語義のみを分類した。
- 11) 500例中45例と9%。動詞用法が少ないのは新聞という媒体の影響かどうかを調べるために、国立国語研究所 (2009) を用いて「イメージ」500例をアトランダムに抽出したところ、動詞用法はやはり1割未満 (500例中39例、7.8%) という結果であった。
- 12) 全用例中動詞用法が1割に満たないという数値を出した中山他 (2007) 及び、注11) の国立国語研究所 (2009) のソースは、いずれも書き言葉である。話し言葉については根拠にできるデータがないため、言及できない。ここで、語義Bが基本的な語義だと述べている点については、話し言葉では動詞用法が増えるのではないかという推測に立っているものである。
- 13) 中山 (2007) の対象教科書の条件は、凡人社の『日本語教材リスト35, 36』に掲載されているもののうち、1990年以降調査年の2006年までの刊行物で、語彙索引があるもの等であるが、『日本語教材リスト38, 39』においてそれ以降に新たに出版されたり、語彙索引付きで改訂されたりしたもの等を追加している。追加した教材については、巻末の表に示す。「イメージ」の掲載の有無については、基本的にはメインテキストの語彙索引に「イメージ」が掲載されているか否かで判断したが、中には『日本語5つのとびら』のように「メインテキストの語彙索引には掲載されていないが、練習帳の語彙索引に掲載されており、実際にメインテキストで「イメージ」が使われているもの」も含まれている。
- 14) 本稿の「初～中級」には中山 (2007) の「初級～中級」「初級～上級」「初中級」「初中級～中級」が該当する。中山 (2007) の級別の基準は凡人社の『日本語教材リスト』による。
- 15) 本稿の「中～上級」には中山 (2007) の「中級～上級」及び「中上級」が該当する。
- 16) 注6) にも記したが、新試験の日本語能力試験は、各レベルの出題基準を発表していないため、「イメージ」がどのレベルに配当されるのか不明である。
- 17) 総合教科書には練習帳などが付されているものもあるが、「イメージ」の用例はメインテキストに掲載されている文だけを対象とした。
- 18) 『日本語5つのとびら—中級編—』の練習帳には「カタカナ語と使い方」という項目があり、「イメージ」の用例として「どんなイメージがありますか」「どんなイメージを持っていますか」という例文が載っている。練習帳では「イメージがある」「イメージを持つ」というコロケーションもカバーしている。

参考・引用文献

- 河原崎幹夫 (1998) 「片仮名の指導法」『講座日本語と日本語教育第9巻日本語の文字・表記 (下)』明治書院
- 金愛蘭 (2006) 「外来語「トラブル」の基本語化—20世紀後半の新聞記事における—」『日本語の研究』第2巻2号
日本語学会
- 国際交流基金・日本国際教育協会 (2004) 『日本語能力試験出題基準改訂版』2版 凡人社

- 国立国語研究所 (1991) 『国立国語研究所報告78日本語教育のための基本語彙調査』 3版 秀英出版
- 国立国語研究所 (2005) 『国立国語研究所報告121現代雑誌の語彙調査—1994年発行70誌—』 国立国語研究所
- 国立国語研究所 (2009) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 モニター公開データ (2009年度版)」 国立国語研究所
- 真田信治 (1977) 『基本語彙・基礎語彙』 『岩波講座日本語 9』 岩波書店
- 専門教育出版 (1998) 『品詞別・A～Dレベル別 1万語語彙分類集 (改訂)』 専門教育出版
- 中山恵利子 (2006) 『日本語教育現場におけるカタカナ教育の実態調査』 平成17年度～18年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究課題番号17520358 平成17年度研究成果報告書 (中間報告書)
- 中山恵利子・桐生りか・山口昌也 (2007) 「新聞に見る基幹外来語」 『国立国語研究所報告126公共媒体の外来語—「外来語」言い換え提案を支える調査研究—』 国立国語研究所
- 中山恵利子 (2007) 『カタカナ教育の基礎的研究—日本語教育における分野の確立を目指して—』 平成17年度～18年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究課題番号17520358 研究成果報告書
- 中山恵利子・陣内正敬・桐生りか・三宅直子 (2008) 「日本語教育におけるカタカナ教育の扱われ方」 『日本語教育』 138 日本語教育学会
- 中山恵利子・田中恵子・加藤理恵 (2010) 「カタカナ語を教える—「イメージ」を例として」 『2010世界日語教育大会 論文集 (予稿集)』 大新書局
- 凡人社 (2008) 『日本語教材リスト38』 凡人社
- 凡人社 (2009) 『日本語教材リスト39』 凡人社
- 丸山敬介 (2003) 『日本語教育演習シリーズ⑤教え方の基本 (改訂版)』 凡人社

(2010年11月26日掲載決定)

●総合教科書リスト（追加分）30冊

教科書	編著者	出版社	出版年	レベル	冊数
JAPANESE FOR BUSY PEOPLE I, II, III Revised 3rd Edition	国際日本語普及協会	講談社インターナショナル	2007	初級	3
J. Bridge for Beginners vol.1	小山悟	凡人社	2007	初級	1
SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE I, II, III	筑波ランゲージスクール	凡人社	1991～5	初級	3
日本語5つのとびら—初級編1—	立命館アジア太平洋大学編	凡人社	2009	初級	1
日本語初級 I, II 新装版	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会	2002	初級	2
日本語初歩	鈴木忍・川瀬生郎	凡人社	1985	初級	1
日本語—はじめまして—	東京外語専門学校編	凡人社	1994	初級	1
J. Bridge for Beginners vol.2	小山悟	凡人社	2008	初中級	1
学ぼう！にほんご 初中級	日本語教育教材開発委員会編	専門教育出版	2006	初中級	1
J. Bridge 新装版	小山悟	凡人社	2009	初中～中級	1
上級へのとびら	岡まゆみ他	くろしお出版	2009	中級	1
日本語5つのとびら—中級編—	立命館アジア太平洋大学編	凡人社	2008	中級	1
日本語中級 I	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会	1979	中級	1
日本語中級 I	川瀬生郎他	凡人社	1990	中級	1
日本語中級 II	川瀬生郎他	凡人社	1996	中級	1
改訂版 トピックによる日本語総合演習 中級前期	佐々木薫他	スリーエーネットワーク	2009	中級	1
改訂版 トピックによる日本語総合演習 中級後期	安藤節子他	スリーエーネットワーク	2009	中級	1
ドラえものどこでも日本語	當作靖彦他	小学館	2009	中級	1
学ぼう！にほんご 中級	日本語教育教材開発委員会編	専門教育出版	2007	中級	1
みんなの日本語中級 I	スリーエーネットワーク	スリーエーネットワーク	2008	中級	1
大学「教養の日本語」basic	大野純子	講談社出版サービスセンター	2005	中～上級	1
日本語5つのとびら—中上級編—	立命館アジア太平洋大学編	凡人社	2008	中上級	1
学ぼう！にほんご 中上級	日本語教育教材開発委員会編	専門教育出版	2009	中上級	1
大学「教養の日本語」	大野純子	講談社出版サービスセンター	2003	上級	1
トピックによる日本語総合演習 上級	安藤節子他	スリーエーネットワーク	2001	上級	1

※『大学「教養の日本語」』は『日本語教材リスト38』には掲載されているが、絶版となったため『同39』には掲載されていない。